

スポーツと子ども

◎ 子供たちはスポーツ大好き

子供たちに「あなたの一番好きな教科は何ですか」という質問を投げかけると、中にはそうでない子供もいますが、ほとんどの子供は「こう答えると思います。「体育」

子供たちは、部屋の中でじっくりと話を聞いたり、難しいことに考えをめぐらせているよりも、外で元氣よく体を動かしているほうが好きなようです。

そんなスポーツの好きな子供たちの心と体にちょっとした異変が起きつつあることをご存じですか。

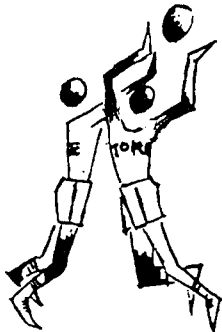
都留市では毎年「都留地区親善球技大会」という行事を行っています。これには、都留市、道志村、秋山村、西桂町の各小学校が参加し、男子はサッカー、女子はミニバスケットボールの技を競い合っています。

以前はこの大会を行う際の会議でこんなことが毎回話題になっていました。「サッカーやミニバスケットボールのスポーツ少年団のある地域とそうでない地域とでは技術の差が著しいので考えなくてはならないのではないか」

しかし、最近はどうでしょう。そのことはほとんど話題にならなくなりました。それどころか、最近ではスポーツ少年団のない山の子供たちの方が動きが良くなって

いるのです。勝利に対する執着心というのはいくつの子供もそれほど変わりはありません。しかし、走る力、ボールをもぎとってやろうとする姿勢などを見ていると以前とは逆転現象が起こっていると思えます。なぜ、こんな現象が起こって来ているのでしょうか。

一つ考えられることに、都市化が進む町の子供たちの心の中にきびしい練習に対するしらけた気持ちが心の中に生まれて来ているからではないのでしょうか。練習の



過程の中でなるべく楽しみたいという気持ちが単食しているからなのではないでしょうか。最近の若者たちは「しらせ世代」と呼ばれ、努力することを惜しむ人たちが増えているようです。そんな社会の影響があるからなのではないでしょうか。

それとは裏腹に、こんな事例がみられます。

小学校時代や中学校時代にスポーツ少年団・部活動などで活躍した選手が、高校・大学などに行ってもその名が全く消えてしまっているという事です。もちろんそのまま活躍していく選手も多いとは思

いますが、そのように消えて行ってしまう選手が出て来るのはなぜでしょうか。

その理由の一つとして、スポーツ障害が上げられると思います。例えば野球では変化球の投げ過ぎで肘や肩をおかしくしてしまう例がありました。これはかなり反省され、変化球の禁止や投手の投球数の制限などの措置が取られて来ましたが、まだまだ練習のやり過ぎで悪くしてしまう子供もいるようです。ミニバス、サッカー、バレーなどでは練習のやり過ぎで、成長期にある子供の関節に障害が起り、歩くことさえ満足にできない子供にしてしまう例もあります。

いずれの例も練習のやり過ぎが原因になっているようです。子供たちは何もしていないと氣力や基礎体力の乏しい大人に成長してしまおう。だからと言って、やり過ぎると障害を起こしてしま

う。それではどのように子供たちを導いてあげるのが最も良いのでしょうか。はっきりした答えはないと思いますが、いずれにしても私たち大人が良い環境を与えてあげることが大切だと思います。子供がやりたいからやらせる、やりたくないからやらせないではなく、子供の健康、成長、意欲、気持ちなどから大人たちが判断して、正しい道に導いてあげることが大切なのではないのでしょうか。

青少年健全育成標語入選作品発表

十一月の青少年健全育成強調月間には、青少年が健全に育つことを願い、全国各地で様々な行事が行われました。これを期して、都留市でも青少年健全育成標語を一般募集したところ、広く市民の皆さまから寄せられた標語は、総数八〇六点にのぼりました。この中から厳正に審査し、優秀三点、佳作六点が選出され、十一月八日の「都留市青少年健全育成大会」で表彰式が行われました。

審査結果

小学校の部

☆優秀 「お父さん お母さん 今日私のお話 聞いてね」

☆佳作 「かくしごと 一つも持たない 素直な子」

禾生第一小学校 五年 坂本 理恵
禾生第二小学校 五年 高田 昌範
「素直な子 ごめんなさいが すぐ言える」
谷村第一小学校 六年 広瀬由紀子

中学校の部

☆優秀 「やっています 笑顔・信頼・話し合い」

☆佳作 「みつめよう 今日の自分と 明日の自分」

東桂中学校 一年 松島 夕起
東桂中学校 一年 渡辺 美樹
「善と悪 わからないなんて 言わせない」
都留第一中学校 一年 萱沼 恵

一般の部

☆優秀 「暖かい 心くばりで 健やかな育成」

☆佳作 「つまづいた 石を教訓(おしえ)に 道探る」

「過ちを 改める勇気が 健全育成」
つる一三三三 細田 晃造
つる四一一一四 小林 義次

